

しつちよる？ やつちよる？ 健康づくり！

「ちよび塩」でおいしく運動・活動で元気に！

No. 108

健康増進課 健康づくり班 ☎ 73・5504

受診控えにご用心

1、2、3月は「行く、逃げる、去る」ともいわれ、慌ただしく新年度や新学期、新生活の準備をしている方もいるのではないのでしょうか。

何かと忙しい日々の中で、ついつい後回しになりがちなのが健康チェック。コロナ禍での受診控えが、時に重大な病気の発見を遅らせることもあります。その1つが「がん」。がんは日本人の死因の第1位であり、死亡数は年々増加しています。今や2人に1人ががんにかかる時代。感染症対策と同様にがん予防に努め、早すぎる死やがんで苦しむ人々が1人でも減ることを願っています。

健康な人ほど受けて！

内閣府が平成28年に行ったがん対策に関する世論調査によると、がん検診を受けない理由の上位は「時間が無い(30・6%)」、「健康に自信がある(29・2%)」、「心配な時は受診する(23・7%)」でした。

しかし、がん検診で重要なのは「特

に症状がない健康な方が受けること」

であり、病気の症状がない人の症状が出る前の早期がんを発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を防ぐことです。また、がん患者の約3割は40〜64歳の現役世代のため、忙しくて時間がない人にもぜひ受けて欲しい検診です。

お得ながん検診！

町のがん検診を実費で受けると8〜10倍の費用がかかるのをご存じですか？また、令和4年度からは、胃、大腸、肺、子宮、乳房の5種類のがん検診を町内10会場で同日受けられるように調整しています。お財布にも時間にもお得ながん検診をぜひご利用ください。詳細は4月以降順次ご案内します。※結核・肺がん検診の会場が一部集約されます。皆さまのご理解とご協力を願います。

【ちよび塩クイズ】

塩の摂り過ぎが影響するがんは何がんでしょう。(答えは15ページに掲載)

周防大島の文化財 ④7

志駄岸神社の灯籠

志駄岸神社は小松宮ノ下に位置する神社である。奈良時代の宝龜3年(772年)に大分県宇佐神宮より勧請され、当初は屋代の徳神にあつたが、後に洪水に遭って流失した。この大洪水で小松と笠佐島間の海に浅瀬が形成されたが、夜になると浅瀬の上に光が現れるようになった。そこで網を入れてみるとシダの葉に乗った御神体が引き上げられたので、神社を現在の地に遷すとともに志駄岸八幡宮と呼ぶようになったと伝わる。

現在、境内には参道入口の常夜灯籠をはじめとして65基の石灯籠が立ち並んでいる。その多くは明治時代以降に奉獻されたものであるが、3対の石灯籠は江戸時代に奉獻されており、天明6年(1786年)や文久3年(1863年)といった年号が灯籠に刻んである。江戸時代の世の平穏を願う人々の思いが今日に伝わるものである。その中でもとりわけ目を引くのが、参道入口に位置する大灯籠である。この灯籠は高さ5メートルに達する大きなもので、江戸時代後期の天保11年(1840年)・弘化3年(1847年)に築造されている。当時の大島では、塩に加えて木綿の生産が盛んで、廻船

周防大島町文化財保護審議会委員

中野 行真

によって各地に販売されていた。そのため、この灯籠の施主として、台石に戸田から掠野にかけての氏子・商工業者に加えて、西は現在の福岡県や大分県の白杵、東は広島県の鞆(現在の福山市)や岡山県の玉島(現在の倉敷市)・笠岡・大阪など広範な地域の木綿・塩業・運送業者の名が刻銘されている。また、その中の幾人か、たとえば大阪の佐渡屋伊兵衛・袴屋弥兵衛・廣屋佐兵衛などの名前は開作の塩竈神社の玉垣の中にも見ることが出来る。この大燈籠は、夜間には灯火を掲げ塩田越しの灯台として、船舶の安全に寄与した。



▲参道入口の大灯籠と奉獻された灯籠群